



## 特集 武蔵野会2021 秋の実り



「東京2020パラリンピック聖火ランナーを勤めました」  
千代田区立障害者福祉センターえみふる

### トピック 社会福祉法人の連携、合併、 事業譲渡について考える

令和2年7月の社会保障審議会で「社会福祉法人の事業展開に係るガイドライン案」や「合併・事業等マニュアル」が示されました。前書きには「人口減少社会の到来、福祉ニーズの複雑多様化、地域社会の変化が進行し、社会福祉法人もこうした変化への対応が求められている。(中略) 今般、公益性と非営利性の両面を備え、良質な福祉サービスを提供する使命を持つ社会福祉法人が、こうした地域ニーズに応え役割をさらに発揮することを期待して、社会福祉法人の連携、合併、事業譲渡等(以下「事業展開」)の手続きと留意点等を整理した『社会福祉法人の事業展開に係るガイドライン』を策定した」とあります。更に「社会福祉法人の事業展開は法人の自主的判断で進められるべきで、希望する社会福祉法人が事業展開を円滑に取り組めるよう示した」と追記しています。

つまり、社会福祉法人が自主的に連携、合併、事業譲渡等をして少子高齢人口減少社会における複雑で多様な福祉ニーズに対応することを国が推進しているということです。

思えば、平成12年の社会福祉基礎構造改革で、施設経営から法人単位の経営の確立が謳われ、平成25年の社会福祉法人の在り方検討会で、社会福祉法人の大規模化や複数法人の連携推進等による経営の合理化、近代化の必要性を示されました。しかし、法人の本部機能が整うのは、法人練り入れが安定する中規模以上の法人と考えられ、合併のメリットを生かさないと思えます。昨年度の合併は全国で19件という報告があり、多くが対等合併というわけでもなさそうです。継続困難な状態での吸収合併や事業譲渡では、積極的事业展開には繋がりにくいと思えます。

生産人口の減少で職員採用はいつそう難しく、大規模化のメリットを存続維持につなげて、支援の質の向上につながるには限りません。国が福祉充実を方針とし、本部機能が強化できるよう、法人練り入れのさらなる規制緩和や、学生の福祉への就労推進などのバックアップがあつてこそ、社会福祉法人の自主的判断が促され、ガイドラインの趣旨である事業展開につながると思えます。

# 特集

## 武蔵野会2021 秋の実り

### 八王子地区

希望の里では、平成元年の開所まもなく、木工製品を自主生産品として作っています。毎年作っている干支シリーズは木工製品でも主流製品であり、今回も来年の干支の寅を作っています。職員が切り出したものを利用者が紙やすりで磨き、最後に蠟に漬け込み、さらに手拭いで磨いていきます。蠟に漬けることにより、木のぬくも



虎のように強く、早く！

りが増し、愛着も湧いてくることでしょう。今回の寅は、可愛い中にも躍動感あふれるものを作ってみました。虎に見えるでしょうか。ちなみに猫ではありません。悪しからず。

### 御殿場地区

さくら学園では日中活動として長年、陶芸・織物・紙漉きの活動を行っています。現在は、専属の日中活動支援員12名がそれぞれの活動班で利用者支援と作品制作に関わっています。今回は、紙漉き班の活動について紹介します。紙漉き班は、利用者20名、職員4名（全員女性）で活動しています。活動は牛乳パックを再利用して和紙を作り、その和紙を元に様々な作品制作を行っています。具体的な工程は、紙漉き工程・数字書き・書写・ミキサー・紙千切り等で、紙漉き工程は3人一組の共同作業になっています。ミキサーや紙千切りは、どなたでも関わられる内容です。数字書きや書写は、

利用者が書いた文字や絵がそのまま作品に活かされカレンダーになります。また、漉いた紙で、ぼち袋・箸袋を作っています。いずれも利用者の個性が作品の味としてそのまま活かされています。現在、コロナ禍のため積極的な販売活動は控えています。利用者の自己実現や達成感を味わっていただくために活動を行っています。経験あるスタッフが、しっかりとサポートしています。



ぼち袋を作っています

### 葛飾地区

葛飾地区の就労支援施設では秋に入り利用者の皆さんが生き生きと活躍する場面が増えていきます。

### 千代田・文京地区

千代田区立障害者福祉センターえみふるでは、2021年10月、「アートパラ深川おしゃべり芸術祭」に応募したアート作品が「㈱セブナイレブ・ジャパン」賞を受賞しました。この作品は施設で出たダンボールから生まれました。様々な形に切り取ったパーツに利用者さんが自由に色を塗り、顔を作ったり体を組み合わせています。また、この作品は、ほとんどのアイデアをボランティアの方から提案いただき、完成まで終始携わっていただきました。えみふるに携わる多くの方々からの自由な発想の結晶がこの「とびだせ！ダンちゃん」です。



受賞作品「とびだせ！ダンちゃん」

### むさしの武蔵野

#### 公園のゴミは 社会の縮図か

就労支援施設では、行政の委託を受けて公園清掃を行っています。公園内には、遊具で遊ぶ幼児や三々五々太極拳をする団体、ジョギングに汗を流す人もおり、子供だけでなく、多種多様な方が過ごす場所であることが分かります。委託業務にはゴミの分別があります。可燃ゴミと不燃ゴミに分別し、集積場に集める作業です。ゴミの内容は、飲食系のゴミに加え、公園で使ったと思われるありとあらゆる物が捨てられています。お花見の季節にはカセットコンロや食器、テブル等の一切切切を、使っていたブルーシートに丸めて捨ててあたりします。これらに加え40ℓの袋に生ゴミを詰め、その上にペットボトルや空き缶ゴミが詰め込まれパンパンになったゴミ袋。何本ものスプレー缶を新聞紙でぐるぐる巻きにして袋の底に隠したり、90ℓいっぱいの野菜くずだったり、海にいるエイやボイルした鳥の首等が入った袋等、様々な物が捨てられています。「便利」は「使い捨て」そのものです。

個々の生活習慣や価値観がそのまま出るこれらのゴミを見る限り、公園内で出たゴミだけでなく、近隣の家庭からもゴミが持ち込まれている様です。ルールや決まり事は、円滑に物事を進めるために作る場合と、一定の条件にそぐわない対象を排除する二つの役割を持っています。地域のゴミ集積場にも一定のルールがあり、そのルールを守る人は決められた近い場所にゴミを出しますが、決まりを守らず、ルールに従えない何等かの理由がある人は、わざわざ公園まで重たいゴミを持ち込んできます。公園を社会の縮図みたいなものとして見た場合、「こちら側から困ったと感じる人は、実は本人が一番困っている」との話が脳裏をよぎります。今後公園の監視が更に厳しくなった場合、これらのゴミをどこへ捨てに行くのでしょうか。目の前に山と積まれた大量の家庭ゴミの分別に苦勞しながらも「社会のルールに馴染めない人」への心配をどうしてもしてしまいます。

きね川福祉作業所  
施設長 本田 直記

白鳥福祉館の秋と言えば、落ち葉いっぱい公園清掃や受注作業にも力が入りますが、やはり10月開催の「お茶亀まつり」。新型コロナウイルスで昨年は残念ながら中止、感染症対策をしながら2年ぶりの開催です。館内はすでにお茶亀まつり一色。定番の色紙の輪っかやお花の他、手作りの青空や虹、木々や季節のフルーツなども飾られ、まさに実りの秋。アトラクションのダンスの練習にも余念がありません。文化・芸術の秋に加え食欲の秋も楽しみです。



手作りのお茶亀まつり館内装飾



毎回盛況の区民ホール販売（葛飾区役所）

choice（ぶらすちよいす／葛飾区障害者施設自主生産品販売所）で「葛飾かりんと饅頭」を1年前から常設販売しお陰様で好評です。加えて今年度より、+choiceが週3回行っている「区民ホール販売」を月1回サポートしています。お客様の声が直接聞けることや他施設が作っている様々な商品を間近に見られ大きな刺激となっており、かりんと饅頭の品質向上や新たな商品開発に活かしたいと考えています。これまではコロナ禍で主に職員が従事しましたが、今後は利用者の皆さんが従事し活躍出来るようにしたいです。

その他、+choiceの季節限定企画で「施設応援ギフトセット」

化が危惧される時代に、繋がり  
の大切さを再認識させてくれた作  
品です。

10月中旬でも30℃。半袖で快適  
に過ごせる日が続き、秋がとても  
短くなったように感じます。リア  
ン文京ではその短い秋を凝縮して  
楽しもうと施設内のあちらこちら  
で季節が感じられる工夫を取り入  
れています。その一つにハロウイ  
ン演出された菜園があります。菜  
園には、じゃがいも、ねぎ、人参  
にんにく、レタス、玉ねぎと、多  
種の野菜が植えられ、畑の番人サ  
ブちゃんもジエシーの2人が見守  
っています。その2人が身に付け  
ている衣装もハロウィン仕様。衣  
替えされ、秋の装いです。利用者  
さんが毎日水をあげ、草をとり、  
愛情込めて話しかけながら大切に  
育てている野菜たち。順調に育つ  
と11月中には収穫ができそうです。

## 世田谷地区

意外に畑が多い世田谷。近くの  
農園で利用者の皆さんがさつま芋  
の収穫に汗を流しました。今年も  
豊作で思わずこの笑顔です。お芋  
といえば、カフェ「しあわせ世のも  
りあわせ」オリジナルの「お芋  
ブラン」。ホクホクお芋のクリー  
ムたっぷりでのこの秋のイチ押しで



塩焼き小屋での窯焼き作業



素敵な貝のアクセサリーの完成です

グループに関係なく自分で仕事を  
決めていきます。他のグループの活  
動を見る機会を作り、自分で決め  
た仕事をしていただけるようにし  
たいと考えています。

す！そして、梨・柿・ざくろ・か  
りん・いちじく等々、「工房  
asi & 八十八屋」の地産地消  
数量限定ジャムは秋ならではのラ  
インナップ。畑とスイーツ、秋の  
最強タッグです。



お芋ほり大収穫に思わずにっこり



「工房asi & 八十八屋」ジャム

## 練馬地区

光が丘福祉園では、メモ帳や付  
箋、マグネットクリップやビーズ  
製品などを作っています。中身の  
メモ用紙を計測したり表紙の飾り  
付けをしたり、利用者さんの得意  
なことを製品作りに活かしていま  
す。

小平福祉園ではTシャツ、ツリ  
ー、織物、陶芸製品からパン、ク  
ッキーなどの食品作りまで幅広い  
自主生産品を販売しています。今  
年特に力を入れているTシャツは、  
利用者の方が描いた絵をシルクス  
クリーン技法で一枚一枚丁寧に印  
刷をします。購入した方から「か  
わいい」「雰囲気が良い」と好評  
を得ています。また、クッキーは、  
ふんだんにバターを使用し、中は  
しっとり表面はサクツとした香り  
豊かなクッキーになっています。  
是非ご賞味ください。

大泉町福祉園ではイルミネーシ  
ョンランプを作っています。クリ  
スマスシーズンには大変な人気商  
品になります。接着剤が入った液  
体に浸した糸を丸い風船に巻き付  
けた後、中の風船を割って取り出  
し、ドーム型の外枠を作り出さ  
す。ランプは赤青緑に点灯してとて  
もきれいです。

北町福祉作業所では、コロナ禍  
で激減した受注作業も少しずつ回

## 大島地区

一日中活動は、利用者の生活リズ  
ムを作ると共に、意思決定の意味  
からも入所施設になくてはならな  
重要なものです。

第2大島恵の園では5つのグル  
ープに分かれ、日中活動を行って  
います。「さんそ」との塩、「し  
えいく」の紙すき、「はーべす  
と」の貝アクセサリーなどを作っ  
ています。「きらめき」と「あく  
ていぶ」は、散歩やリハビリのほ  
か園芸を行い、キュウリやゴーヤ  
など季節の野菜を楽しんでいます。  
作業種を決めるにあたっては、せ  
つかくなら大島にあるものを活用  
した作業にしたいと選択しました。  
塩作りは、ふなわの湊(差木地)  
に行き、きれいな海水を汲んでき  
ます。塩焼き小屋で釜焚きをしま  
すが、暑い季節はできません。涼  
しい時を狙って行います。最近  
はただ煮詰めて塩にするだけではな  
く、ある程度煮詰めた海水を太陽  
熱でじっくり乾かす「サンソル  
ト」に挑戦しています。職員から  
は、粒が大きくて使いにくいので  
はと意見が上がっていますが、ミ  
ネラルたっぷりの塩は、焼いた肉  
によく合います。ソルト・ミルト  
セットにして販売したらどうかと  
いう案を現在検討中です。  
貝のアクセサリーは、しばらく

復し、丁合や封入作業など、忙し  
い日々がもどろつつあります。自  
主生産品は、感染防止のため利用  
者参加を見合わせましたが、状況  
が落ち着きしだい再開の予定です。  
パウンドケーキなどの自主生産品  
は、最高級「きたまちまるん」を  
はじめ季節ごとの新製品も開発し  
人気商品となっています。

練馬福祉園の喫茶陽だまりでは、  
ふわふわモチリ食感のシフォン  
ケーキを販売しています。ほっと  
一息したい時にぴったりのお菓子  
です。日替わりでプレーン、抹茶、  
ロイヤルミルクテイラー、ココア、  
レモン、紅茶、黒ゴマ味をご用意  
注文があればホールでの販売もい  
たします。地域の方々で大変親し  
まれているシフォンケーキは、コ  
ロナ禍でも販売しておりますので、  
ご来園の際は是非お試しください。  
(祭日店休)



手作りTシャツ (小平福祉園)

止まっていた活動を再開する際に、  
せっかくの大島だからと決めたも  
のです。地域の方から貝磨きや貝  
を切る技術を教わり、砂の浜や弘  
法浜に行き貝を拾うところから始  
めました。新任職員のフォローア  
ップ研修で大島に来た職員も利用  
者で行ったことがあり、懐かし  
思い出す方もいるのではないでし  
ょうか。サザエやアワビ、トコブ  
シなどの貝を使います。

アクセサリーの形に切り取るの  
は職員の仕事ですが磨くのは利用  
者の仕事です。同じところばかり  
磨いてしまう人や貝と一緒に守指  
を磨いてしまう方などいて、大騒  
ぎの中で貝のアクセサリーが完成  
します。出来上がると、自分たち  
が作ったものと皆さん胸を張りま  
す。一度、家族面談で販売したこ  
とがありました。あつという間  
に売り切れになりました。コロナ  
禍でなかなかご家族に見ていただ  
けないのですが、コロナが収まる  
まで、作品を溜めておきたいと考  
えています。貝を探すもの大変で  
す。なかなか希望のものが見つか  
りません。ご家族に相談したとこ  
ろ、アワビやトコブシの貝がら  
家にあつたと、送って下さる方も  
いらつしやいました。大事に使わ  
なければと思っています。活動は  
定着しました。今後は「選択」も  
進めます。既に、しえいくとハ  
ーベストでは、あの仕事が良いと、



イルミネーションランプ  
(大泉町福祉園)



きたまちまるん  
(北町福祉作業所)



日替わりシフォンケーキ  
(練馬福祉園 喫茶陽だまり)



メモ帳 (光が丘福祉園)

## パラリンピック採火式 八王子・葛飾地区

### 【八王子市】

**心身障害者福祉センター**  
東京2020パラリンピックの開催に先立ち、去る8月20日の午前8時45分から市内富士森公園を会場に、八王子市長・市議会正副議長ご出席の下、「東京2020パラリンピック聖火【八王子の火】採火式」が執り行われました。武蔵野会から、高橋理事長と峯尾所長が出席。この採火式への参加団体は、当センターのほか市内にある特別支援学校など全部で7団体です。このうち、当センターを含む4団体が作成した手紙や折り鶴などを入れた集火台に、他の3団体が採火した火を種火に「八王子の火」を作りあげました。それぞれの想いが一つになった八王子の火は、都の集火式で「東京の火」となり、全国47都道府県とパラリンピック発祥の地であるストック・マンデンビルの



市長の手に灯った八王子の火

火が東京でパラリンピックの聖火として一つに統合されました。当センターでは、センター利用者の方々と武蔵野会の八王子市内7施設が協力し、赤・青・緑のパラリンピックシンボルカラーを模した輪飾りを作成。一つひとつの輪飾りには「頑張ってください」「金メダルだけが目的ではありません」など作成した方々の想いが込められました。きつと選手の皆さんに届いたことと思います。

### 【東堀切くすのき園】

葛飾区では東京パラリンピック大会の開催に向け、8月20日に東堀切くすのき園を含む区内の障害福祉施設と特別支援学校の5ヶ所で聖火をかたどって制作したアート作品を集め、パトチャルな炎による採火式を行いました。個性的な5つの聖火は



2020東京パラ大会「葛飾の火」

ひとつにまとまり東京都庁の都内集火式に向けて送られ、東京都の火となりました。東堀切くすのき園ではアート活動の中で利用者の皆さんが思いのある炎を描き、支援員と一緒に作品を創りました。思い出に残る活動になったことと思います。葛飾で生まれた聖火は区役所などでパラ大会の閉幕まで展示され、区民の皆さんの注目を集めました。

## パラリンピック 聖火ランナー

### 千代田区立 障害者福祉センター えみふる

8月21日、都立葛西臨海公園



ワンチームで聖火を届けます

## 障害児通所支援事業 すぎな愛育園・ふらっつぷ

すぎな愛育園では、来年4月に3か所目となる放課後等デイサービス「ふらっつぷ」を開設しました。開設場所はすぎな愛育園きさら（八王子市片倉町）で、きさらに通う幼児さんと入れ替わる形で小学生、中学生、高校生が放課後の余暇や休日をご一緒にやって来ます。もともとすぎな愛育園で運営している放課後等デイサービス「こすもす（小学生対象）」、「あみい（中学生、高校生対象）」はきさらの卒園児や八王子南部地区にお住いの方からは場所が遠く、利用していた

ける方も限られていました。「もっと多くの卒園児や南部地区にお住いの方とも繋がっていきたい」というすぎな愛育園の思いと「きさらで放課後等デイサービスを開設してほしい」という保護者の思いが合致し「ふらっつぷ」を開設する運びとなりました。「ふらっつぷ」は対象が小学生から高校生までなので幼児期から高校卒業まで継続した支援が可能となり、さらにその先も武蔵野会の成人施設に繋ぐことで生涯を武蔵野会で支えていくことが可能になります。今もその先も、生き生きと「羽ばたける」(Fly)／「ふらっつぷ」素敵な場所にしていきたいと思います。



みんな大好きな園庭と園舎です



### 西水元あやめ園

認知症カフェ「あやめカフェ」はコロナ禍の影響で現在開催を見合せていますが、新たに広報誌「あやめカフェ通信」を昨年10月から始めています。地域で介護されている方々や福祉関係者から手記を寄せていただき、元気を地域に発信しています！

### 光が丘すてつぷ

就労もしくは準備中の障害者は、新型コロナウイルス接種の予約手続きを自身で行ないますが、障害者に配慮された手順になっていないため、すてつぷで支援しています。こんな時こそユニバーサルデザインの「誰もが使いやすい」を実現してほしいと感じます。

### 小平福祉園

10月に施設内でお祭りを行いました。毎年楽しみにされている方も多く、模擬店での飲食はもちろん、尺八の演奏やハロウィンダンス、音楽講師との初めての楽器の演奏などたくさん楽しまれました。

### リアン文京

今回ニッセイ財団から高齢社会地域福祉チャレンジ活動助成をいただけることになりました。地域情報発信・蜜蜂・イベント型貢献プログラム・アートの4つの事業を

展開しながら人々と地域とさらにつながります。

### 大泉町福祉園

災害用伝言ダイヤルをご家族の方に体験していただきました。訓練の伝言と併せて録音したキーワードを翌日の連絡帳に記入された方には、みんなで育てたゴーヤをプレゼント。楽しんで行える訓練を重ね、災害に備えたいと思います。

### 光が丘福祉園

10月19日に「ハピひかハロウィン」を開催。魔法使いやドラキュラなどの衣装に身を包み、写真撮影をしました。おやつタイムではゼリーやムースが何層にも重なった大きくてカラフルなパフェを食べ、皆さん、ご満悦でした。

### 希望の里

希望の里では、8月に全館の蛍光管交換工事を行いました。従来の蛍光灯からLEDに比べ明るくなったと利用者の皆さんからの評判は上々です。LED効果で省エネ・省コストで手間いらずになりました。

### 烏山福祉作業所

令和4年度に行う改修工事の準備を進めています。老朽化に伴う設備の入替と令和5年度開始の新規事業のための改修です。先日、感染症対策を講じ、区職員にも同席いただき、ご家族の方向けの工事説明会を行いました。



## 自動手指消毒器

白鳥福祉館

公益社団法人葛飾法人会・女性部会様から、「自動検温消毒器」を寄贈していただきました。

手をかざすだけで、素早く検温と消毒が同時に行う事ができます。現在、玄関とデイサービスの活動室に設置して、使用しています。利用者の皆さんや職員はもちろん、外部からいらっしやった方にも利用していただき、その場で体温の確認がで



全自動で便利です

るため、とても重宝しています。以前家族会から寄贈していただいた消毒液設置台と合わせ、今後も大切に使用させていただきます、感染予防策に取り組んでいきたいと思えます。

## お知らせコーナー

### 10月

21日(木) 第20回くすのき祭 (東堀切くすのき園)  
22日(金)

### 11月

6日(土) 実践事例報告会 (練馬地区)  
9日(火) インフルエンザ予防接種 (東堀切くすのき園)  
12日(金) 葛飾区障害者作品展 (出展) (東堀切くすのき園)  
18日(木)  
13日(土) 実践事例報告会 (葛飾地区)  
19日(金) かがやきまつり (北町福祉作業所)  
27日(土) 東社協会的発達障害部会 Session! TOKYO 2021 (障害者週間記念行事)  
28日(日)

### 12月

24日(金) クリスマス会 (東堀切くすのき園)  
25日(土) クリスマス会 (八王子生活実習所)  
27日(月) 餅つき会 (八王子生活実習所)

## 東京消防庁から

### 感謝状の授与

東堀切くすのき園

救急の日である9月9日、当施設が全職員の救命講習受講推進や自主救護体制の充実強化に寄与したとして、本消防署から感謝状をいただきました。同署の年森政弘消防指令長が来園され、取り組みへの労いと感謝の言葉をいただきました。

当施設は福祉避難所の指定も受けており、地域住民の安全安心のスポットとしての役割も担っています。今後も命と健康を守る取り組みを関係機関と連携しながら進めていきます。



これからも非常時に備えます

## 武蔵野会後援会

社会福祉法人武蔵野会が経営する事業所の利用者のためにより良い環境や施設の充実、円滑な運営などを物心両面から支える組織として武蔵野会後援会があります。皆様のご理解とご協力により会の拡大を図り、法人の運営基盤の確立を応援していますのでご協力をお願い申し上げます。

〒193-0931  
東京都八王子市台町1-19-3  
電話・FAX 042-626-9772



秋の味覚を召し上がれ

10月から秋の味覚フェアが始まり、栗・芋・カボチャなどを使ったスイーツを作製しています。季節の一番美味しい味覚をパティシエを始め利用者さんと試行錯誤して、お客様の幸せな時間をお届けしています。

Hachiwell Labcafe  
ハチウェルラボカフェ